

令和 3 年度

東京都公立大学法人  
業務実績評価書  
(案)

東京都地方独立行政法人評価委員会

# I 全体評価

## 【全体評価】

令和3年度は、第三期中期目標期間の5年目として、中期目標達成に向けて中期計画に基づいた年度計画を順調に実施しており、着実な業務の進捗状況にある。

### ●優れた点・特色ある点

- 東京都立大学では、知識を教授する授業の一部において、録画教材を有効活用するとともに、対面授業での学生同士の議論を充実させる「新しい対面授業」を実施した。また、実践的な授業にも力を入れ、特に現場体験型インターンシップにおいて、積極的に受入先の調整を行うとともに、学生が安全・安心に受講できるよう、感染症対策に十分配慮し、授業を実施するなど、多様な学修機会の提供に努め、教育の質の向上を図った点が評価できる。
- 東京都立産業技術大学院大学では、学校紹介やコース紹介に関する新規動画コンテンツを複数作成するなど、情報発信を充実させることで、大学院説明会には令和2年度を上回る379名が参加し、令和4年度4月入学における大学全体の志願倍率は、過去最高水準の1.63倍に達している点が高く評価できる。
- 東京都立産業技術高等専門学校では、情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、着実に教育成果を上げ、それぞれ過去最多の修了生を輩出し、その全員が、専攻分野を学ぶための進学又は関連企業への就職が決定するなど、社会の要請に応える実践的な知識や技術を有する人材を送り出した点が高く評価できる。
- 東京都立大学法人の業務運営においては、働き方改革の推進に向けて、事務局長をトップとして、各部署にワーキンググループを設置し、全職員を対象とした働き方改革に関する意見聴取を行い、寄せられた約900件の意見を踏まえ、業務の改善案を取りまとめ、実行した。具体的には、超過勤務手当支払業務にRPAを導入するなど、業務執行の効率化に向けた取組を推進した点が評価できる。

### ●改善すべき点

- 東京都立大学南大沢キャンパスにおいて、令和3年12月に発生した、化学物質を使用した実験による火災を未然に防げなかったことは極めて遺憾である。再発防止に向けて安全対策検討会の設置や「危険物に関する安全対策」の新たな策定など、様々な取組がなされているが、こうした事故が二度と起こらぬよう、防火体制の整備を図るとともに、安全対策の実効性を検証し、盤石なものとなされたい。また、事故が発生した部局に限った問題と捉えることなく、法人・教職員全体の問題として危機管理意識を共有し、対応策の浸透・徹底に取り組まされたい。

## 1 総評

- 令和3年度は、東京都立大学法人（以下「法人」という。）の業務が、概ね順調に進められた1年であったと評価する。特に、コロナ禍を契機として導入が進んだデジタルの強みを活かし、国際シンポジウムやセミナーのオンラインでの開催、教育効果を勘案したハイブリッド型授業の展開など、教育研究の質の向上を図るとともに、社会貢献においても、対面によらない公開講座等を通じて、新たな受講層を獲得するなど、効果的な法人運営を推進した。
- 各高等教育機関はそれぞれの特色を活かしながらバランスよく教育、研究、社会貢献活動を精力的に行っている。一方で、感染症やエネルギー問題など、社会が直面する課題は複雑化・高度化しており、その解決に向けて、都立の高等教育機関である2大学1高専への期待が高まっ

ている。こうした付託に応えられるよう、あらゆる面での一層の取組が求められる。

#### 【東京都立大学】

- 東京都立大学（以下「都立大」という。）では、知識を教授する授業の一部において、録画教材を有効活用するとともに、対面授業での学生同士の議論を充実させる「新しい対面授業」を実施した。また、実践的な授業にも力を入れ、特に現場体験型インターンシップにおいて、積極的に受入先の調整を行うとともに、学生が安全・安心に受講できるよう、感染症対策に十分配慮し、授業を実施するなど、多様な学修機会の提供に努め、教育の質の向上を図った。
- 世界有数の科学ニュースサイトである EurekAlert!において、令和2年度の16本を上回る24本の論文の投稿を行った。また、新たにオンラインによるオープンユニバーシティ講座を開講し、オンラインの特性を活かした魅力的なコンテンツの作成や、高校生向けに工夫した講座の開講等、研究成果の発信を充実させ、全国からの多くの受講者の獲得にもつながった。
- 東京都立大学プレミアム・カレッジの専攻科修了者を対象に、3年目以降も学び続けることができる研究生コースを開講するとともに、広報を一層充実させ、本科では募集人員50名を大きく上回る205名の志願者(令和3年度比26名増)を確保した。
- 世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによるオンライン講座を実施し、多くの受講者を確保するとともに、高い満足度も得ている。コロナ禍で留学が難しい環境にある中、学生に対して知見や視野を広げる機会を提供しており、加えて本講座を一般公開することにより、社会に向けた学びの機会提供の充実を図った。

#### 【東京都立産業技術大学院大学】

- 東京都立産業技術大学院大学（以下「産技大」という。）では、文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金」を活用し、対面受講者とオンライン受講者の円滑な共同作業を支援するデジタルツールを導入するなど、学修環境の充実を推進するとともに、こうしたデジタルを活用した教育の高度化に関する知見を他大学と共有することにより、教育の改善に努めた。
- 学校紹介やコース紹介に関する新規動画コンテンツを複数作成するなど、情報発信を充実させることで、大学院説明会には令和2年度を上回る379名が参加し、令和4年度4月入学における大学全体の志願倍率は、過去最高水準の1.63倍に達している。
- 産技大が実施する公開講座 AIIT フォーラムをオンライン形式で実施することにより、北海道など、対面では対象となりえなかった地域からの参加を実現した。また、「健康寿命」をテーマに、社会人を対象とした新たな履修証明プログラムを開講するなど、多様な地域・社会貢献を実施した。

#### 【東京都立産業技術高等専門学校】

- 東京都立産業技術高等専門学校（以下「産技高専」という。）では、情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、着実に教育成果を上げ、それぞれ過去最多の修了生を輩出し、その全員が、専攻分野を学ぶための進学又は関連企業への就職が決定するなど、社会の要請に応える実践的な知識や技術を有する人材を送り出した。
- 情報工学プログラムをはじめとする4つの教育プログラムについて、J A B E E（技術者育成プログラムの審査・認定を行う機関）への申請を行い、全てのプログラムが国際的に通用するものとの認定を受けた。
- 後援団体の協力を得て、中学生向けに開催している「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」

は、定員を大きく上回る申込みがあり、さらに企業等が実施する情報セキュリティ関連イベントへの教員の協力を通じて、後援を働きかけ、新たに5団体・1企業を獲得するなど、後援団体数を着実に増やしている。

### 【法人運営全般】

- 法人の業務運営においては、働き方改革の推進に向けて、事務局長をトップとして、各部署にワーキンググループを設置し、全職員を対象とした働き方改革に関する意見聴取を行い、寄せられた約900件の意見を踏まえ、業務の改善案を取りまとめ、実行した。具体的には、超過勤務手当支払業務にRPAを導入するなど、業務執行の効率化に向けた取組を推進した。
- 都立大南大沢キャンパスにおいて、令和3年12月に発生した、化学物質を使用した実験による火災を未然に防げなかったことは極めて遺憾である。再発防止に向けて安全対策検討会の設置や「危険物に関する安全対策」の新たな策定など、様々な取組がなされているが、こうした事故が二度と起こらぬよう、防火体制の整備を図るとともに、安全対策の実効性を検証し、盤石なものとなされたい。また、事故が発生した部局に限った問題と捉えることなく、法人・教職員全体の問題として危機管理意識を共有し、対応策の浸透・徹底に取り組まされたい。

## 2 中期目標の達成に向けた課題、法人への要望など

- 今期はコロナ禍の影響を色濃く受け、中期計画で定めた学生支援やグローバル化の取組など、事業の中止や大幅な見直しを余儀なくされる事態となっている。当初の目標の達成を機械的に目指すのではなく、環境変化に対して、どのようなポリシーに基づき代替策を講ずるのか、多面的に検討し、柔軟に対応していただきたい。
- 法人事務局が、2大学1高専の「橋渡し」を主導的に進め、教職員間の情報共有や交流の強化を一層図ることで、各校の強みを活かしながら相乗効果を引き出していくことを期待する。
- 2大学1高専において、ホームページやSNS等を活用し、各校のPRに努め、認知度の向上に取り組んでいるが、優秀な人材を一層確保するため、教育内容や学生生活、研究成果など、様々な角度から学生や教員の活躍を効果的に発信するなど戦略的な広報を展開することを期待する。
- 行政や企業など単一の主体では解決が難しい社会課題が増加する中、都立の教育研究機関として、数多くの大学や企業、スタートアップなどが集積するという東京の特性を活かして、こうした主体とコラボレーションを進め、社会課題の解決に積極的な役割を果たしていくことを期待する。

## 【項目別評価】

### ① 業務実績の検証

項目別評価を実施するに当たって、法人から提出された業務実績等報告書を基に検証を行った。検証に当たっては、年度計画及び中期計画に記載されている各項目の業務の実績について、中期計画の進捗・達成状況及び成果・効果を確認するとともに、法人の自己評価及び計画設定の妥当性を含め総合的に行った。検証は、法人からのヒアリングにより実施した。

### ② 業務実績の評価

業務実績等報告書の各項目の検証及び特記事項等を基に、業務の進捗・達成状況及び成果・効果を大項目ごとに1～5の5段階で評価した。

## 【年度評価】（評定・評語・説明）

評定	評語	説明
1	年度計画を大幅に上回って実施している。	顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
2	年度計画を上回って実施している。	年度計画を上回る取組、実績又は成果を挙げたもの、あるいは年度計画を順調に実施し、かつその取組に注目すべき点（※）が認められるもの
3	年度計画を順調に実施している。	達成度が概ね100%程度と認められるもの
4	年度計画を十分に実施できていない。	年度計画を計画通り実施できていないもの 実績・成果が年度計画を下回っているもの
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である。	公立大学分科会が特に認める場合

※中期目標を達成するため、中期計画を前倒しして実施するなど、戦略性が高く意欲的な年度計画を積極的に実施するなどの、その取組に注目すべき内容が認められるもの、あるいは社会情勢の変化等の外的要因により達成がより困難となった年度計画について達成したもの等

年度計画の大項目ごとの評定及び評定説明は、以下のとおりである。中期計画の項目に沿って記載する。

## I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
1	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
2	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育改革を推進する取組の強化	3
3	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇学修支援環境の整備 ◇教育の質の改善	3
4	学生への支援に関する目標を達成するための措置	2
5	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	3

## 【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

（優れた点・特色ある点）

- 【大項目1】今後、超高齢社会を迎える中、大学院分野横断プログラムとして「超高齢社会学際プログラム」を開講し、幅広い視野と応用的な思考力を涵養する教育に取り組ん

だ。

- 【大項目1】「新しい対面授業」として、知識を教授する授業の一部では、録画教材を有効活用し、学内での対面授業においては、学生同士の議論の時間を充実させる等、教育の質の向上を図った。
- 【大項目1】現場体験型インターンシップについては、積極的に受入先の調整を行うとともに、感染症対策に十分な配慮を行い、学生が安全・安心に、満足するような形で、きめ細かい対応をとりながら実施した。
- 【大項目2】教学 IR データを基に、各部署のニーズに応じた分析が活発に行われ、全学的な教育改革に反映されている。
- 【大項目2】博士後期課程の活性化に向けて、キャリアパス支援のためのセミナー、ワークショップ、外部メンターによる面談のほか、研究専念支援金や研究奨励費を支給する等の取組を行った。
- 【大項目3】FD・SD セミナーの実施に当たり、企業の採用担当者や卒業生を講師に招いた。また、38 大学 92 名の参加者を得て大学間の情報交換や教務関連のケーススタディを用いたグループセッションを行う等、FD・SD の更なる活性化に向けた工夫がなされた。
- 【大項目4】コロナ禍においても、物品購入等、9 団体の課外活動を支援し、結果として、支援団体からは人力飛行機の 2 団体がテレビ局主催のコンテストで優勝する成果につながる等、課外活動の活発化が図られた。
- 【大項目4】学生への経済支援については、学生ポータルメール配信機能を活用すること等により、対象学生に漏れなく情報を提供し、制度の周知とともに申請機会の見逃し防止につなげ、令和 2 年度に大幅に増加した学生の規模を維持した。
- 【大項目4】手話講習会やパソコンテイク講習会等の実施を通じた、学生スタッフのスキルアップにより、支援体制の充実が図られている。
- 【大項目5】引き続きオンラインによる大学説明会において、入試に関する情報提供を積極的に発信し、8 万回以上の閲覧があった。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目1】全学共通教育プログラムにおいて、専攻する分野以外の学びの充実を図ることを期待する。
- 【大項目1】TA 従事者に対するアンケートについては、今後、アンケート回答者を増やし、検証結果をより正確なものにすることを期待する。
- 【大項目2】教学 IR データを、一層大学運営に活かすとともに、外部への情報発信に活用することを期待する。
- 【大項目3】FD セミナーへの参加者数増加に向けた取組を期待する。
- 【大項目4】コロナ禍で健康診断受診率が停滞するのはやむを得ない面もあるが、引き続き受診率の向上を目指して目標値に近づける取組が行われることを期待する。
- 【大項目4】OBOG ネットワークへの登録者数は着実に向上しているものの、更なる増加が望まれる。
- 【大項目5】Web 大学説明会の総閲覧回数は 8 万回以上となっているが、志願者数は減少している。志願者数の回復につながる取組を期待する。

**2 研究に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評定
6	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	2
7	研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	3

**【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目6】研究センター等に対する積極的な支援を継続することで、センターの外部資金獲得額は平成 26～28 年度平均獲得額比 164%、リサーチコアを含む場合の獲得額は

195%となり、中期計画の目標を大きく超えている。

- 【大項目6】世界最大規模の科学ニュースサイトである EurekaAlert!において、令和2年度の16本を上回る24本の論文の投稿が行われ、研究広報の充実が図られている。
- 【大項目6】新たにオンラインによるオープンユニバーシティ講座を開講し、オンライン専用であることを踏まえた魅力的なコンテンツ作成や、高校生向けに工夫した講座の開講により、全国から多くの受講者を獲得する等、都立大のプレゼンス向上につなげた。
- 【大項目7】国際シンポジウムの開催にあたり、海外の研究者を招聘する等、海外の研究者や研究機関との連携につなげた。
- 【大項目7】科研費新規採択率（「挑戦的研究」を除く。）は34.5%と、令和元年度の水準を更に上回り、引き続き30%以上を維持した。
- 【大項目7】ローカル5G環境を民間企業等へ無償提供し、提供を受けた企業が、学内での実証実験等を通じ、社会実装を進める等、5Gの新たなユースケースの創出や産学公連携の促進につなげた。

**（更なる充実が期待される点）**

- 【大項目6】国際共著論文の割合は、目標数値を満たしているものの、低下傾向にあるため、更なる取組強化を期待する。
- 【大項目7】研究センター所属の外国人研究者比率は20.7%に留まっていることから、引き続き、中期計画の目標である30%以上を目指して、取組を強力に推進することを期待する。
- 【大項目7】国の大型研究プロジェクトの採択件数について、中期計画の目標を達成できるよう、引き続き研究支援の推進を期待する。

**（改善すべき点）**

- 【大項目6】被引用度トップ10%論文の比率(過去5年平均)が低下しているため、抜本的な強化策を検討いただきたい。

**3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
8	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
9	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

**【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**（優れた点・特色ある点）**

- 【大項目8】TMU サステナブル研究推進機構の取組の一環として、東京都と国際金融に関する共同研究を2件開始するなど、都政課題の解決に貢献するプロジェクトの組成に取り組んだ。
- 【大項目8】東京2020大会後も、障害者スポーツに関する動画を配信するとともに、学生向けにパラスポーツの体験や大会ボランティア活動に参加した講師や学生によるオンラインイベントを開催するなど、大会後のレガシーとして、障害者スポーツの理解促進に貢献した。
- 【大項目9】引き続きURAによる教員へのサポートをきめ細かく実施することにより、受託研究費等の受入金額において、法人化後最高額を獲得した。
- 【大項目9】オープンユニバーシティにおいて、オンライン講座を開講したことにより、首都圏以外の新たな受講層の獲得につながった。
- 【大項目9】学びの意欲に応えるため、東京都立大学プレミアム・カレッジの専攻科修了者を対象に、3年目以降も学び続けることができる研究生コースを開講した。また広報を一層充実させ、本科では募集人員50名を大きく上回る205名の志願者（令和3年度比26名増）を確保した。



(更なる充実が期待される点)

- 【大項目 8】 コロナ禍の影響があるとは思われるが学際的大型プロジェクトは組成できていない。施策提案発表会等、都政ニーズと研究シーズを結び付ける取組を期待する。
- 【大項目 8】 高度金融専門人材養成プログラムについては、一定の成果が出ているものの、国際金融都市構想を実現するための施策の検討や、大学院生の研究水準の維持向上を期待する。

#### 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
10	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇教育の国際通用性 ◇学生の海外派遣の拡充 ◇外国人留学生の受入れ	3
11	グローバル化に関する目標を達成するための措置 ◇海外の大学等との連携 ◇都市外交を支えるネットワーク形成 ◇キャンパスの国際化	3

【評価説明】 優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目 10】 学生の留学意欲向上を目指して、教員・職員・学生で構成された留学促進チームを新たに立ち上げ、留学促進策を検討・実施し、留学英語講座等の参加人数が増加した。
- 【大項目 10】 オンライン講座にて、世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる連続講義を実施し、多くの受講者を確保するとともに、高い満足度も得ている。コロナ禍で留学が難しい環境にある中、学生に対して知見や視野を広げる機会を提供している。また、一般公開により、社会に向けた学びの機会の提供の充実を図った。
- 【大項目 10】 都市外交人材育成基金の活用による大学院留学生入学者数は、コロナ禍前を上回る 51 名となった。
- 【大項目 11】 引き続き、語学研修をオンライン形式で実施する等により、TOEIC スコア 600 点以上を取得している職員の割合を 24.3% (正規職員では 33.2%) に高めた。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目 10】 コロナ禍の影響もあり、グローバル人材育成入試での志願者数が減少し、合格者数が定員を大きく下回っており、志願者数の回復に向けた取組が期待される。
- 【大項目 11】 外国人教員比率について、学長より、各部局に対して外国人教員の能動的採用を促すなど、積極的な採用の働きかけを継続して行うことにより、外国人教員割合が 4.3%まで高まっている。中期計画の目標である 5%の達成に向けて更なる取組を期待する。

## II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
12	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	2
13	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇産業界や他大学等との連携による教育実施体制の整備 ◇東京都立大学及び東京都立産業技術高等専門学校との連携	2

14	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育の評価・改善	3
15	学生への支援に関する目標を達成するための措置	3
16	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	1

**【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目12】外部レビューアやPBL検討部会を活用し、PBLのテーマや活動の進め方、PBL型教育手法そのものについて検証を行うなど、PBL型教育に関するPDCAサイクルを継続した。</li> <li>○【大項目13】文部科学省の補助事業により、学内の教室からの参加者とオンライン参加者のコラボレーションを円滑にするツールを各教室に導入するなど、学修環境の充実を推進した。また、本事業の成果発表の一環として、他大学と連携した公開FDフォーラムを開催し、デジタルを活用した教育の高度化に関する知見を共有した。</li> <li>○【大項目13】ビナ・ヌサンタラ大学(インドネシア)との包括協定に基づき、国際シンポジウムを実施するなど、教育成果等に関する情報を共有した。</li> <li>○【大項目13】産技高専との共同研究を推進するとともに、同校専攻科生のインターンシップを受け入れ、受入学生が学会発表を行うなど、産技高専との連携を強化した。</li> <li>○【大項目14】学生向けの授業評価アンケートを行い、アンケート結果に基づくアクションプランを作成する等、教育の質向上に取り組んでおり、引き続き、全授業の評価平均は4.35と、高水準を維持している。</li> <li>○【大項目14】教育のDXやオンライン授業をテーマに、FDフォーラムを開催し、教員の参加率100%を維持した。</li> <li>○【大項目15】担任教員が1年生全員に対してメールによる履修相談を行うなど、コロナ禍においても、きめ細かな学生支援を行った。</li> <li>○【大項目16】学校紹介やコース紹介に関する新規動画コンテンツを複数作成するなど情報発信を充実させることで、大学院説明会には令和2年度を上回る379名が参加し、令和4年度4月入学における大学全体の志願倍率は、過去最高水準の1.63倍に達している。</li> </ul> <p>(更なる充実が期待される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目13】産技高専を含む高専からの令和4年度の入学者がいなかったことから、産技高専との連携を加速する取組を期待したい。</li> <li>○【大項目14】内部質保証に関する責任体制及び実施手続きが明確になったので、それらが効率的・効果的に運用されることを期待する。</li> <li>○【大項目15】修了後の自主的学修や研究を促す「修了生コミュニティ」について、修了生同士の触発による研究や仕事の創造につながるよう、ネットワーク促進に期待する。</li> <li>○【大項目16】単位バンク生の登録者数及び単位バンク生からの入学者数がともに増加しており、入学者の確保に寄与した。今後は、単位バンクの登録、単位バンクを利用した入学者数を更に拡充していくための取組を期待する。</li> </ul>		
---	--	--

**2 研究に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評定
17	研究に関する目標を達成するための措置	3

**【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

<p>(優れた点・特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【大項目17】引き続きオンラインを活用してPBL研究会を開催し、教員の参加率100%を達成している。</li> </ul>		
---	--	--

- 【大項目17】研究分野の深化、研究成果の社会への還元を目的とする研究所を新たに2つ設置し、計9研究所を運営することにより、産業振興に資する開発型研究の推進につながった。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目17】既存データによる志願者分析や専門職人材育成の専門家の招聘など、IR活動が推進されつつあるが、さらに学生の学修状況や学修環境との関連などの分析も進め、教育改善が促されることを期待する。

### 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
18	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
19	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	2

#### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目18】東京都、区市町村等の職員向け研修や公開講座について、特に研修機会が少ないと思われる島しょ地域に対して、オンラインでの研修を開催するなど、着実に自治体の職員の育成に貢献している。
- 【大項目18】東京都の「大学研究者による事業提案制度」において、産技大教員が申請した「東京都地域防災計画のIoD (Internet of Documents) 化による防災力向上」が採択された。
- 【大項目19】令和2年度に続き、AIITフォーラムをオンライン形式で実施することにより、対面では対象となりえなかった地域からの申込みがあった。さらに、1講座については、再配信の希望が寄せられ、後に再公開されるとともに、自治体の要請を受けて公開講座を実施するなど、幅広い地域貢献につながった。
- 【大項目19】AIITシニアスタートアッププログラムからは14名、健康寿命デザイン講座からは10名の修了生をそれぞれ輩出するなど、社会人に多様な学びの機会を提供した。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目18】都や区市町村等への政策課題支援、職員向けの研修・公開講座への潜在的ニーズは大きいと思われるので、丁寧に掘り起こしていくとともに、知名度の向上や情報発信の強化に取り組むことを期待する。
- 【大項目19】AIITフォーラムについて、認知度の向上に向け、視聴者、参加者が増える工夫をして頂きたい。また、実施回数の増加についても検討されたい。

### 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
20	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

#### 【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目20】グローバルに活躍できる高度専門職業人を育成するため、SDGsをテーマに、アジア・アフリカ等、多様な地域と連携したオンラインPBLを実施した。
- 【大項目20】学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標を活用した教育を行い、その教育効果により、能力指標の基準を満たす学生の割合が90%を超えるなど、中期計画

の目標値を上回った。

- 【大項目20】コロナ禍による渡航制限がある中で、アジア諸国の大学とオンライン形式でのセミナー、シンポジウム等を開催して、交流・連携の強化を図った。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目20】グローバルPBLについては、コロナ禍においても、様々な工夫を図っているが、オンラインの利便性を活かし、今後一層の拡充を期待する。
- 【大項目20】グローバル人材の能力指標の基準について、定義を明確にするとともに客観性を高めることを期待する。

### Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 1 教育に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評定
21	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	1
22	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育システムの継続的な改善 ◇他の教育機関等との連携	3
23	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ◇教育の質の評価・改善	3
24	学生への支援に関する目標を達成するための措置	2
25	入学者選抜に関する目標を達成するための措置	2

#### 【評定説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目21】令和3年度に開講した医工連携教育・研究プロジェクトの未来工学教育プログラムにおいて、16名の受講生を選抜し、アクティブ・ラーニングを導入した授業など、実践的なカリキュラムを実施した。また、医工連携ビジネスプログラムについては、東京都の関連機関との協働により講座を実施するとともに、今後の教育内容の充実につなげた。
- 【大項目21】情報セキュリティ技術者育成プログラム及び航空技術者育成プログラムにおいて、着実に教育成果を上げ、それぞれ過去最多の修了生を輩出し、その全員が、専攻分野を学ぶための進学又は関連企業への就職が決定している。
- 【大項目21】申請を行った4プログラム全てが、JABEE（技術者育成プログラムの審査・認定を行う機関）の認定を受けるとともに、JABEEが求める教育の質保証を担保するため、授業内容やカリキュラムの確認を行った。
- 【大項目22】運営協力者会議を活用し、令和3年度から開始する新コースに関する意見等の聴取を行い、意見に基づく取組を検討・実施することにより、教育プログラムの改善につなげている。
- 【大項目22】グローバル・コミュニケーション・プログラムをはじめとして、2大学1高専の連携に主体的に取り組み、実績をあげている。
- 【大項目23】職層別研修や個別課題研修など各種研修への教員の参加率がすべて100%を達成している。
- 【大項目24】未来工房プロジェクトなどの提案公募方式による課外活動経費の助成や、クラブ活動指導員の採用などにより、課外活動支援の充実を図った。
- 【大項目24】学生が継続して自身のキャリアに関して学んだことなどを記録することによりキャリア形成の過程を可視化するキャリアポートフォリオを活用し、就職・進学に役立つなど、学生に対するキャリア支援を充実した。

- 【大項目25】品川区及び荒川区との協定に基づく特別推薦入試制度において、令和4年度入試は、品川区から8名、荒川区から4名、計12名の候補者から、各区2名、申込みがあり、計4名の学生の受入れが決定した。
- 【大項目25】女子卒業生インタビューや女子高専出身者による企業インタビュー等のコンテンツをホームページに掲載し、女子学生の確保に向けた情報発信に努めた。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目21】AIスマート工学コース及び情報システム工学コースの2つの新コースは、多くの学生を集めており、社会からの期待も高い。しっかりと軌道に乗るように教育内容の充実に期待する。
- 【大項目21】今後有益なものとなっていく社会人向け情報セキュリティ教育については、広報活動を工夫することなどにより、多くの利用者を獲得することを期待する。
- 【大項目22】令和4年度編入学生として都立工業高校から5名を受け入れているが、更に連携を拡充する取組を期待する。
- 【大項目24】学生相談においては令和2年度に比べて対面以外の相談が大幅に増えており、学生が利用しやすいようになっている。今後も、オンラインを活用したきめ細かな学生相談対応が継続されることを期待する。
- 【大項目25】ホームページの改修やSNSでの積極的な発信、コンテンツの拡充など、広報活動に精力的に取り組んでおり、その結果、ホームページやSNSのアクセス数、フォロワー数は増加している。一方、志願者数は伸び悩んでいることから、戦略的な広報を志願者の増加につなげていくことを期待する。

**2 研究に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
26	研究に関する目標を達成するための措置	3

**【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目26】若手教員対象の応募書類添削や個人面談など、外部資金獲得のための支援を継続して行った結果、過去最高であった令和2年度の科研費新規採択率と同様の高水準を維持した。

**(更なる充実が期待される点)**

- 【大項目26】特別研究期間制度について、取得対象の拡大や、取得期間の柔軟化など、より多くの教員が取得しやすい仕組みの見直しを図ったものの、取得者が目標値に届いていないことから、取得の促進に向けた更なる取組を期待する。

**3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置**

大項目番号	取組事項	評価
27	都政との連携に関する目標を達成するための措置	3
28	社会貢献等に関する目標を達成するための措置	3

**【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など**

**(優れた点・特色ある点)**

- 【大項目27】コロナ禍にあつて、中学生を対象とした「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や「ICT基礎Lab. for Junior」を複数回にわたって実施し、中学生に体験学習の機会を提供した。

- 【大項目27】特に「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」は、定員を大きく上回る申込みがあり、さらに企業等が実施する情報セキュリティ関連イベントへの教員の協力を通じて後援を働きかけ、新規で5団体・1企業を獲得するなど、後援団体数を着実に増やしている。
- 【大項目28】中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座は、更に新規の講座が開設され充実が図られている。また、サイバーセキュリティ関係の講座はアンケートで好評を得ている。

(更なる充実が期待される点)

- 【大項目28】警視庁や商工会議所との連携を更に強化し、中小企業向けサイバーセキュリティ研修を標準化して横展開していくことを期待する。

#### 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置

大項目番号	取組事項	評価
29	グローバル化に関する目標を達成するための措置	2

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目29】グローバル・コミュニケーション・プログラム、国際・エデュケーション・プログラムについては、感染拡大による渡航中止決定を受け、対面やオンラインを組み合わせたプログラムへと再構築した。これにより海外で働くことへの興味が増したなどのアンケート結果が得られるなど、各プログラムについて工夫しながら実効性を高めた。
- 【大項目29】専攻科の一部のコースのみで開講されていた英語授業を、専攻科の全コースで履修できるようリニューアルし、専攻科生74名中48名が履修した。

#### IV～VII 法人運営全般に係る目標を達成するためにとるべき措置

大項目番号	取組事項	評価
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
30	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	3
31	教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置	3
32	事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置	2
V 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
33	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置		
34	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置		
35	その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	3

【評価説明】優れた点・特色ある点、更なる充実が期待される点、改善すべき点など

(優れた点・特色ある点)

- 【大項目30】持続可能な社会の実現に向けた調査研究機能強化に組織的に取り組むため、TMU サステナブル研究推進機構を設置し、東京都と連携した研究テーマ2件に着手するなど、東京都の戦略的シンクタンクとしての機能の強化を図っている。
- 【大項目30】情報分野や国際分野等高度な専門性を必要とするポストを精査し、URA4名を含む専門職人材8名を配置するとともに、勤務実績等を反映した処遇を行うことなどにより、専門職の一層の活用に向けた取組を進めた。
- 【大項目31】大学高専連携の推進に向け、2大学1高専の教職員間の情報共有や、交流の強化、産技高専専攻科生の都立大大学院への推薦入学について、関係者を交えて意見交換を行った。
- 【大項目32】東京都の要請による、南大沢キャンパスにおける新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場を設置するに当たり、迅速に組織一丸となって対応を行い、若者へのワクチン接種の加速に寄与し、地域社会への貢献を果たした。
- 【大項目32】働き方改革推進計画の策定や業務見直しに向けて、全職員を対象に意見聴取を行い、合計約900件の意見を踏まえて検討した。これにより、特に超過勤務手当支払業務等の多くの労働力が割かれていた業務の合理化・効率化が図られた。
- 【大項目33】引き続きURAによる教員へのサポートをきめ細かく実施すること等により、受託研究費等の受入金額において、法人化後最高額を獲得した。
- 【大項目34】都立大の教育・研究等の魅力を分かりやすく発信するために、都立大総合ホームページ及び大学案内のデザインリニューアルに当たり、ストーリーブランディングの手法を用いて、訴求力のあるコンテンツとなるよう検討を重ねた。
- 【大項目34】卒業生、同窓会等との連携強化に向け、都立大同窓会組織と都立大が包括連携協定を締結した。今後はこの協定に基づき、様々な取組が実施されることを期待する。
- 【大項目35】持続可能な都市の実現に向けた取組として、気候非常事態宣言を発出するなど、法人としての気候変動やカーボンニュートラルに対する考え方や取り組むべき内容を他大学や社会に対して発信した。

#### (更なる充実が期待される点)

- 【大項目30】特別招聘教授制度を導入し、トップレベルの研究者を招聘するなど、質の高い教育研究の実現に向けて人事制度改革に取り組んでいるが、クロスアポイントメント制度をはじめ、その他の制度についても一層の活用を期待する。
- 【大項目31】2大学1高専の連携は、海外交流プログラムの実施や、推薦入学などで進んでいるが、教員・事務担当者間の意見交換を継続して、一層の交流を図り、相乗効果が強まることを期待する。
- 【大項目33】遺贈寄附により寄附金額が大幅に増加しているが、今後も恒常的に寄附が集まるような仕組みを検討されたい。
- 【大項目34】各大学・高専に関心の高そうなユーザーをターゲットに、広報を実施しているものの、他大学・高専と比較したアピールポイント(長所・強み)をより分析し、情報発信されたい。
- 【大項目35】教員及び職員の研究コンプライアンス研修の受講率は令和2年度から引き続き100%となったが、学生の受講率の向上については、更なる取組の強化を期待する。

#### (改善すべき点)

- 【大項目35】令和3年12月に発生した、化学物質を使用した実験による火災を未然に防げなかったことは遺憾である。再発防止に向けて安全対策検討会の設置や「危険物に関する安全対策」の新たな策定など、様々な取組がなされているが、引き続き安全対策の強化を図ることを求める。
- 【大項目35】情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修・自己点検のeラーニング受講率について、都立大教員だけが100%を達成せず、過年度からの改善も見られない。加えて情報セキュリティ事故が頻発しており、抜本的な改善を求める。